

TIC NEWS

vol. **145**
2022.10

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



富山市立柳町小学校 国際教室の様子

富山県内の外国人児童・生徒の支援に向けて

富山県における外国人児童生徒数は、年々増加しています。

県内の取組、支援の状況を紹介します。

(詳細は本誌4～5Pをご覧ください!)

国際交流ひろば

日 時：5月28日(土) 10:00～13:00「アメリカ料理」
7月 2日(土) 14:00～17:00「ベトナム料理」
9月 3日(土) 10:00～13:00「韓国料理」
場 所：富山県民共生センター「サンフォルテ」調理実習室

富山県国際交流員が各々の出身国の文化を楽しく紹介する「国際交流ひろば」。今年度も各国の料理教室を開催し、いずれも定員いっぱいのお申込みを頂きました。

1回目の「アメリカ料理」では、ブリトーとスムージーを作りました。生地づくりから挑戦したブリトーは、こねた生地を薄く丸く伸ばす工程に苦戦しましたが、美味しく仕上げることができました。アメリカらしいチョコレートピーナッツバタースムージーの味は、出来上がるまで皆さん興味津々だったようです。

2回目の「ベトナム料理」では、ブンポーナンポーとタマリンドジュースを作りました。ブンポーは牛肉麺、ナンポーは南部を意味します。特製ダレを絡めた冷たい麺に生野菜をたっぷりのせるこの料理は、あっさりして暑い夏にピッタリで、家でも作ってみたいとの声が多く聞かれました。

3回目の「韓国料理」では、タットリタンとファチェを作りました。韓国の定番家庭料理であるタットリタンのレシピは家庭ごとに異なるようで、今回は講師ヘミンさんのお母さん直伝レシピを教わりました。本場の辛さだと思っていた参加者は、今回の唐辛子の量は実際のレシピの半分だと聞いて驚いていました。

4回目は3月開催予定です。後日ホームページでご案内します！



災害時外国人支援防災訓練事業

(1) 災害時外国人支援ボランティア研修（やさしい日本語）

日 時：7月2日(土) 14:00～15:30
場 所：とやま国際センター 研修室
講 師：NGOダイバーシティとやま 代表 宮田 妙子 氏
内 容：災害時のやさしい日本語について
参加者：12名

(2) 災害時外国人支援ボランティア研修（多言語翻訳コース）

日 時：7月9日(土) 14:00～15:30
場 所：インテック111ビル4階 スカイギャラリー
講 師：富山県国際交流員等
内 容：災害時の外国人支援情報を翻訳する訓練
参加者：8名



(3) 広域連携による災害時外国人支援ボランティア研修会

日 時：8月20日(土) 13:00～16:00
場 所：インテック111ビル4階 スカイギャラリー
講 師：特定非営利活動法人 多文化共生リソースセンター東海 代表理事 土井 佳彦 氏
内 容：災害時外国人支援ボランティアの活動について
参加者：27名（富山県10名、石川県9名、福井県8名）

異文化理解ワークショップ in 富山

日 時：7月10日(日) 10:00～15:00

場 所：環日本海交流会館 大会議室

コーディネーター：JICA富山デスク国際協力推進員 松山 優子 氏



“文化と言語を超えて分かり合うコミュニケーション力を磨く”をテーマに、今回初めて異文化理解ワークショップを行いました。アイスブレーキングで行った“バースデーライン”は、話さずにジェスチャーのみで誕生日順に並んでみよう、というゲームでしたが、日を月より先に言う文化圏の出身者と、月を日より先に言う文化圏出身者の間で意思疎通のミスが起きました。参加者からは「注意していても無意識のうちに日本式の考えをしている自分に気づいた」などの感想が聞かれました。“チームビルディング”というゲームではチームのメンバーの共通点と相違点を洗い出す作業をしました。「チームの最大限のパワーを引き出すには、チームで協調することと、あわせて、各メンバーの違い・個性を最大限に生かすこと、その両方が大事」という感想も聞かれました。

5か国から計14人の参加があり、「普段は黙々と会社で仕事をしていて、日本人社員とも実は話す機会がそんなになかったけれど、やさしい日本語を使っのワークショップは色々な人と交流ができ、楽しかった」という外国人参加者の声も聞かれました。

とやま国際塾

日 時：7月17日(日) 10:00～16:00

場 所：インテック111ビル4階 スカイギャラリー



県内の高校生23名が参加し、「とやま国際塾」を開催しました。“お互いを知ろう！”では、6ヶ国からの富山県国際交流員が企画したゲームを楽しみながら交流を深めました。国際協力講座では、JICA富山デスク国際協力推進員の松山 優子さんが青年海外協力隊の活動を紹介し、協力隊OGの浜 咲季さんからはラオスでの実際の環境教育活動についての紹介がありました。

また、アメリカ出身のマイケル・ゴザードさんと富山市出身 藤田 彩乃さんご夫妻の講義がありました。ゴザードさんからは、自身が脚本を書いたハリウッド映画の紹介、藤田さんからは長年従事されてきた通訳・翻訳の経験についてお話があり、「失敗を恐れず挑戦することが次につながる」という話が高校生たちの心に響いていたようです。

多文化理解連続講座

日 時：7月24日(日) 10:00～11:30 (Zoom)

講 師：上田 タイス 氏 (アーティスト)



創作活動中の上田さん

今年度第1回目の講座はブラジル在住のアーティスト、上田タイスさんから“私のビジュアルアートにおける日本文化の影響”と題してお届けしました。2003年に富山県海外技術研修員として来県されたこともある上田さんは、様々なスタイルのアート作品を生み出してきました。アーティストとして活動を始めた頃の作品から、最近のミニマルかつ東洋的な作風へと移り変わっていく上田さんのアート作品の数々を楽しめる講座となりました。講座はYoutubeでもお楽しみいただけます！

～これからの多文化理解連続講座のご案内～

第2回 10月 8日(土) 10:00～11:30 “ニュージーランドの福祉と教育”(ニュージーランド)

第3回 11月27日(日) 10:00～11:30 “富山の8年が僕にもたらしたもの”(アメリカ)

(リンクはこちら↓)



富山県内の外国人児童・生徒の支援に向けて

富山県内における外国人児童・生徒数および日本語指導が必要な児童・生徒数は年々増加しています。学校のやり取り、外国人児童・生徒に対する日本語指導などの課題に日々対応しています。令和4年4月から県教育委員会「外国人児童・生徒に対する日本語指導員」を県内3校の小学校（拠点校）に配置するとともに、9月から大学生を外国人児童・生徒の支援に活用しています。

富山市の拠点校である柳町小学校には日本語指導が必要な児童が12人通っています。外国人児童生徒教育コーディネーターのコメントは「各児童の家庭状況、出身国の文化、学習状況などの背景が違いう中、学校は各児童に個別に向き合い、すぐ対応する体制を整えています。それぞれ外国人児童・生徒の受け入れに対応してきたノウハウ、スキルが蓄積されているはずです。それを共有していきたい」とのコメントがありました。

学校以外にも県内には教科学習支援を行う教室、団体があります。また、富山県外国人ワンストップ相談センターでは、外国人児童・生徒の保護者面談等に、通訳をまじえて三者で話すことができる電話システムがあり、無料でご利用頂くことができます。外国人児童・生徒の学びを支援していきたいと考えます。



田中 歩美（外国人相談員 高岡市立牧野小学校）

両親は日系ブラジル人です。より良い経済環境を求め、私が小学生になるころ家族で日本に来ました。小学校1年から6年までは射水市の太閤山小学校に通いました。ブラジル人がたくさんいる小学校でしたが、なんとなく周りから遠ざけられているような気がして、ブラジル人の子ども同士で固まっていたような気がします。家では家族とはポルトガル語を使っていたのですが、学校では日本語を使っていたので言葉の切り替えが面倒くさいと思ったのを記憶しています。

小学校6年のときにブラジルに帰ることになりました。突然、勉強についていけなくなり、1年生と混じってアルファベットから勉強するのは恥ずかしかったのですが頑張りました。その結果、学校の最優秀生徒に選ばれたこともあります。

高校2年生で、また日本に来ることになりました。父親からは日本語を忘れないよう常に勉強しておくように言われていたこともあり、無事に志貴野高校の編入試験に合格することができました。ブラジルを離れるときは寂しかったのですが、志貴野高校には昔の幼馴染がいたりしたので、すぐ慣れることができました。また、高校在学時にバイトと勉強を両立したことは自分の社会性を高めることになり、大変良かったと思っています。

ブラジルの学校は勉強したい生徒としたくない生徒にはっきり分かれていて、授業中もうるさい時があります。日本の学校の方が静かで集中しやすい環境がありますが、ブラジルは先生と生徒の関係がもっとフラットで、大学等に行きたければ、先生方は親身にサポートしてくれます。

現在は教会で奉仕活動をしたり、学校で外国人相談員としてブラジル人児童をサポートしたり、ブラジル人児童に日本語や教科を教える活動もしています。外国人児童にとって、学校内で、母語で学校生活をサポートしてくれる外国人相談員のような存在はとてもありがたいことだと思います。また、子どものときに二つの言語を維持することはストレスに感じることもあると思いますが、やはり全く使わないと言葉ができなくなってしまうので、二つの言語を頑張って維持していくことの重要性を子供たちに伝えることができればと思っています。

将来はアメリカの大学に留学して、自分の会社を立ち上げることができたらと思っています。



ロビン ミレル

父が富山ガラス工芸を営むのを機に、家族全員でチェコから富山に引っ越してきました。富山県立富山南小学校が富山市に2校ありました。当時「チェコ語を覚えてね」とけん玉を貸してくれました。小学校3年生として編入しました。最初は勉強に苦労しましたが、初めて覚えた日本語が上手になりました。チェコの小学校では勉強のペースが速いと思いますが、言葉が突如通じなくなると「辛抱強いメンタリティが生まれる」と感じました。コではちょっとしか出なかった宿題をこなすことができました。

チェコの学校は単元毎の小テストが多いですが、日本の学校は単元毎のテストが多いという感じですが、日本の学校はテストの範囲が広く、学期末に学期テストがあるという違いがあります。ただ、論理的思考を鍛えるだけでなく論理的思考を用いることは日本の教育の影響なのかなと思います。

中学1年の途中でチェコに帰国しました。チェコでは勉強が楽でしたが、5歳年上の子と勉強するの大変だったようです。私は長い間、チェコにいたから、友達同士のくだけたコミュニケーションがなかった。ただ、友人関係はすぐに元通りに戻りました。チェコにいたときに日本語を教える人がいません。私も日本語を教える事を始めました。チェコにいたときに気づきました。

この5月、日本政府の奨学金をもらいました。富山県からは教育学部に入り、将来は日本語教師になりたいです。

「私」という個性は教育を通して活かしていきたいです。富山で勉強する中で、私の夢を後押ししてくれていまして、とても感謝しています。これから勉強することになった理由の一つです。

現場では外国人児童・生徒及び保護者と
委員会では「外国人児童生徒教育コーディ
用するなどの取組を行っています。
ーディネーターからは、「一人一人の子ど
ことが求められています。各学校には、
有財産として分かち合えないかと考えて

ンターでは、児童・生徒の父兄への連絡、
とができます。様々なサービスを活用し、

（留学生 東京外国語大学）

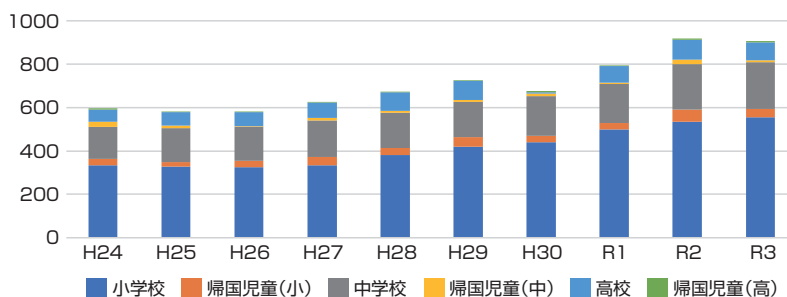
研究所の准教授として来県することになったの
山にやってきました。当時は国際教室がある小
当時の校長先生が、「今度来るときまでにうまく
たのが嬉しくて柳町小学校に通い始めました。
が、国語や社会の時間等に国際教室で日本語を
語は「鬼ごっこ」で、クラスのみんなとすぐ仲
にいた時はお喋りで、やんちゃな子供だったと
なったストレスで吃音になったり、“ひたすら聞
、落ち着きのある子供になったと思います。チェ
も頑張りました。

トが多くて、その積み重ねが学期全体の成績評
の学校教育は「何故そうなるのか?」ということ
で習ったことの全体を理解しているかを試すテ
。自分の数学の解き方は、単純に公式を適用す
ているとチェコで指摘されたことがあり、それ
っています。

しました。チェコで勉強に追いつくのはあまり
下の妹はチェコ語の基礎ができてなかったんで
、家族の間でしかチェコ語を使っていませんで
エコ語の会話が最初はあまりできませんでした。

スムーズになりました。私の住んでいる街では
は高校生になったら、高校生や自分の周りの人
。そんな中で、自分が“教えることが好き”だ
と思っています。

富山県内の外国人児童・生徒数、帰国児童・生徒数の推移



資料出所：文部科学省「学校基本調査」

外国人児童・生徒への日本語・教科学習支援教室

【富山市】

学習日本語支援・勉強お助け隊

日曜日 10:15～11:45

富山市民国際交流協会（富山市新富町1-2-3 CiC3階）

TEL 076-444-0642（※定員に達しました）

【高岡市】

NPO法人アレッセ高岡

対面：火曜日 17:00～19:00、土曜日 9:30～11:30、13:00～15:00

オンライン：水曜日 17:00～19:00、土曜日 15:30～17:30

高岡市守山町35 ニッセビル402

TEL 080-8885-6823

学習支援教室

土曜日 14:00～18:00

高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ5階 会議室（※定員に達しました）

【射水市】

多文化こどもサポートセンター

土曜日 10:00～12:00

太閤山コミュニティセンター

（射水市太閤山8-4-1）

TEL 0766-56-6381

しんみなとコスモス

土曜日 10:00～12:00

堀岡コミュニティセンター（射水市射水町1-17-1）

Mail: ponchan3925@gmail.com

Kodomotachi Hiroba

日曜日 17:30～18:30、月曜日 19:00～20:00

Braves Cultural Center（射水市善光寺31-1）

TEL 080-3740-8412

外国人住民向け保育・教育情報ガイドブック（富山県）

富山の社会・学校生活をスムーズに送るための多言語のガイドブック

<https://www.pref.toyama.jp/1018/kurashi/kyouiku/kyouiku/kj00015191/index.html>

外国人生活支援ポータルサイト【教育・日本語学習】（出入国在留管理庁）

https://www.moj.go.jp/isa/support/portal/guidebook_education.html

外国につながる子供向け教材リンク（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00663.html



富山県外国人ワンストップ相談センター

月曜日～金曜日 9:00～17:00（富山市牛島新町5-5 インテックビル4階）

TEL 076-441-6330

電話通訳サポート（トリオフォン）専用ダイヤル

080-5852-2234

外国人児童・生徒のご父兄と学校との
やり取りの際に通訳が入りサポートします！



北陸と世界をつないで30年

1992年10月に設立されたJICA北陸は、富山、石川、福井の北陸3県を担当するJICAの国内拠点として、歴史を重ね、おかげさまで今年30年という節目を迎えました。

JICA北陸 米山所長からご挨拶

JICA北陸は、今年10月、おかげさまで30周年の節目を迎えます。北陸と世界をつなぎ30年間活動を続けていくことができたのも、北陸3県の市民の皆様や公益財団法人とやま国際センターをはじめ関係諸機関のご指導・ご支援があったとのこと、この場を借りて心から感謝を申し上げたいと存じます。

とやま国際センターは、JICA北陸よりも早く設立され、富山県の国際交流や国際協力の促進に貢献されてきたと理解しております。富山県の国際化や多文化共生の取り組みが進んでいるのも、とやま国際センターの長年の功績であり、我々JICA北陸も、その基盤のうえで円滑に事業を展開させていただいていると感じております。

JICA北陸は、次の30年も、北陸と世界をつなぐ「懸け橋」として、富山県そして北陸の皆様に頼られる存在であり続けられるよう、努めていく所存です。

これからも、引き続きご指導・ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



JICA海外協力隊

個別相談 受付中！

問い合わせ：JICA富山デスク(jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp)

詳細はこちら→



JICA海外協力隊からの現地レポート

富山県出身のJICA海外協力隊員からの現地レポート！
今回はマレーシアから届いたJICA海外協力隊員 高橋 朗さんからの
お便りをご紹介します。

2022年の3月より、マレーシアのサラワク州クチンという都市の社会福祉局に作業療法士として派遣されています。こちらへ来てもうすぐ半年が経とうとしていますが、まだ生活の中で驚くことは多いです。気候は気温が25℃～35℃程ですが、毎日のように夕方から雨が降るので夜は気温が下がり、日本の夏より過ごしやすいかと思えます。クチンは色々な人種の方達が生活しており、マレー語、英語、中国語などを器用に使い分けます。まだまだコミュニケーションでの課題はありますが、現地のみなさんには温かくサポートしてもらっています。活動は障がいを持つ方達の支援なのですが、問題の根本は社会参加のしづらさであることも多く、日本の抱える問題と変わらないなと感じています。そして、家族に対する考え方など日本とは違った価値観を持っておられ、そこから学ぶことはとても有意義です。残りの任期もさらに色々な日本とマレーシアの違いについて学んでいきたいと思えます。

同僚とドラムサークルプログラムを実施
(一番右：高橋隊員)



高橋 朗(たかはし あきら)さん

派遣国：マレーシア

職種：作業療法士

派遣期間：2022年2月～2024年2月

共に生きる TOYAMA

チン トウイ ズン さん（ベトナム・ハノイ市出身）

来日のきっかけ

日本に興味をもったのは日本のアニメや映画が好きだったからです。“ドラえもん”や“名探偵コナン”のようなアニメが大好きでした。大学では日本語を専攻し、ベトナムの会社でベトナム人に日本語を教える仕事をしていました。

日本語をもっと勉強したい、日本文化にもっと触れたいという思いで、2017年来日して、北海道東川町の日本語学校で2年間勉強しました。その後、高岡市の今の会社で自動車部品の販売などを担当しています。実は2016年、出張で富山を訪れたことがあり、富山の印象がとてもよかったので、富山に来ることができたのは運命だと思っています。



富山での生活、仕事について

毎朝8時から会社が始まります。日本の会社にはルールがたくさんあって、社員がちゃんとそれを遵守して働いています。毎日がバラ色という訳ではないですし、仕事が忙しくて疲れるときもありますが、美味しい物を食べると次の日への活力が湧いてきます。日本で好きになったのは生卵、納豆、そしてお寿司です。家の近くに朝市があって、新鮮な果物・野菜が買えて、朝ご飯も食べられます。そこでうどんを食べるのが好きです。ベトナムには屋台がたくさんあって、出勤前にフォーなどを屋台で食べていく人もたくさんいます。逆にベトナムでは夕食時に家族が揃って食べる傾向が強いように思います。

時間があるときは、友達と公園にいたり、ご飯を食べに行ったりしています。好きな場所は高岡古城公園です。先日は早朝にお年寄りの方と一緒にラジオ体操をしました。お年寄りの富山弁はわかりにくいこともありますが、音楽のようなイントネーションが耳に心地よいです。最近、茶道を体験することがありました。ベトナムでも緑茶を飲む習慣がありますが、このような儀式化された文化にはなっていません。茶道のクラスでは、心を落ち着けて、安らかな気持ちになることができます。

また月に2回、高岡の「ふれあい日本語教室たかおか」に行くのが楽しみです。実は会社員生活ではあまり日本語を話す機会がありません。日本語教室ではサポーターさんが“やさしい日本語”を話してくれて会話がとても弾みます。もっと教室があればいいなと思います。

富山の皆さんへのメッセージ

3年以上富山に住んでいて、富山はもう第二の故郷となりました。富山がこれからもっと国際的な都市になったら素晴らしいですね。そして是非、皆さん、私と友達になってください。ベトナム語を教えることができますよ。

ベトナムに持ち帰りたい日本の素晴らしい物と言えば、日本のトイレ、そしてゴミ分別のマナーですね。皆さんがもしハノイに行くことがあるなら、美味しいベトナムのコーヒーや、ベトナム料理を味わってください。そしてホー・チ・ミン廟や旧市街を散策してみてください。

TICから助成した事業をご紹介します

射水市堀岡地域における多文化共生推進事業

射水市堀岡地域の外国にルーツのある大人向けの日本語教室、小中学生の学習支援を行う「しんみなとコスモス」を実施・運営しています。

代表の林 智さんからのメッセージ：

「大人向けの日本語教室は、射水市堀岡及び周辺地域在住の外国人の方を対象に、ひらがな・カタカナの読み方・書き方をはじめ、簡単な漢字を学んでいます。また浴衣体験等の日本文化に触れる機会もあります。『しんみなとコスモス』では、外国にルーツのある子供の学習支援を行っています。大学生のサポーターも加わり、本人のレベルに合わせた支援に繋がるよう工夫しています。長期間の休みには博物館に行ったり、内川で魚釣り体験もしました。」

「大人の日本語教室」 令和4年5月～12月の第2・4土曜日 12:30～13:30

「しんみなとコスモス」 土曜日 10:00～12:00

場所：堀岡コミュニティセンター（射水市射水町1-17-1）

射水市民国際交流協会（射水市）



作ってみよう！上海料理

タン スウ シャオ パイ

糖醋小排 (スペアリブの甘酢かけ)

上海料理は地元の流派の料理という意味の“本幫菜”(ベンバンツァイ)とも呼ばれます。江蘇州や浙江省の料理が上海料理の原型であるともいわれ、酒、醤油、黒酢や砂糖を多用する、甘く濃厚な味に特徴があります。

～作り方～

1. スペアリブは水に20分程漬けて血抜きする。その後、キッチンタオルで水気を拭いておく。
2. 鍋に少量の油を入れ、氷砂糖を入れ、溶けるまで弱火で熱する。
3. 適当な大きさにしたスペアリブを2.の鍋に入れ、焼き色がつくまで炒める。
4. 鍋にAを加え、肉がヒタヒタになる程度の熱湯を注ぎ、弱火で一時間程度煮込む。
5. 酢を少々加え、強火にして汁気を飛ばす。
6. スペアリブを皿に盛り付け、白ゴマをふって、出来上がり。



上海出身

魯 氷さん、鍾 悦さん ご夫婦
おすすめ料理！



～材料 (2～3人分)～

豚スペアリブ(小さめの骨付き肉)
..... 500g

A

生抽(薄口醤油) 大さじ2
老抽(濃口醤油) 大さじ1
鎮江香醋(黒酢) 大さじ2～3
料理酒 大さじ1
ショウガ薄切り 2～3枚
氷砂糖 20g
油 適量
白ゴマ 適量

TICからのお知らせ

これからの行事予定

多文化理解連続講座 (Zoom)

“ニュージーランドの福祉と教育”

10月 8日(土) 10:00～11:30

“富山の8年が僕にもたらしたもの” (アメリカ)

11月27日(日) 10:00～11:30

外国語の絵本読み聞かせ親子の会

土曜日 10:00～11:00 環日本海交流会館

10月 8日 英語、11月12日 ロシア語、

12月10日 英語

災害時外国人支援防災訓練事業

県総合防災訓練

10月16日(日) 10:00～11:30

クロスランドセンター1階 会議室 (小矢部市)

自治体職員等担当者向け研修

10月26日(水) 13:30～16:30

インテックビル4階 スカイギャラリー

ナマステインディア

月曜日 18:30～20:00 とやま国際センター

10月17日・24日 インドの過去と現在

11月 7日・28日 インドの文化

12月 5日・12日 インド料理

国際交流フェスティバルウィーク2022 in TOYAMA

11月13日(日)、14日(月)、16日(水)、17日(木)、

18日(金)

講演、各国紹介ブース等

GiCビル3階 (富山駅南)

多文化共生フォーラム

11月20日(日) 14:00～16:00

インテックビル3階 スカイホール

対談“ピーター流生き方のすすめ”

(ピーター・フランク氏)

パネルディスカッション“多文化共生で地域が変わる!”

外国人のための防災講習会

12月4日(日) 14:00～16:00

富山県総合運動公園会議室、四季防災館

富山県国際交流員より着任のご挨拶!



ゲン・ティ・
タオ さん

シンチャオ! ベトナムのハノイから来ました。現代的かつ伝統的な要素が共存する日本が好きになり、日本との縁が長く続くように日本での就職を決めました。富山は初めてですが、立山登山を通し、豊かな自然で知られる富山に触れ、感動しました。ベトナム人に富山の良い所、美しさが伝わるように精一杯頑張ります。

ナマステ! インドのアンドラプラデシュ州出身です。日本語と日本美術が大好きで、日本の大学に通い、日本で働くようになりました。来県して日が浅いですが、富山県民の文化と生活が、山と海に深く結びついていることに感激しています。インドと富山の架け橋になり富山の素晴らしさを伝えられるよう頑張ります!



バーガワトゥラ・
シリラティヤ
さん

(公財)とやま国際センター賛助会員募集 及び寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員を募集しています。

年会費 (1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円